

令和2年度 さいたま市立川通中学校 学校関係者評価書

さいたま市立川通中学校

学校関係者評価委員長



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 11人

中学校PTA顧問1名、自治会長2名、小学校長2名、小学校PTA会長2名、民生児童委員1名、主任児童委員1名、交通指導員1名、中学校PTA会長1名

(2) 実施回数 2回

令和2年7月9日(木)…書面開催、令和3年2月18日(木)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- ・生徒が大変落ち着いており、生徒の多くは学校生活を満足している様子が伺える。
- ・学校評価において、教職員の意見がたくさん出ていることから、教職員が細かい事を含めて、いろいろと考えている様子が伺える。
- ・生徒指導委員会や教育相談部会を中心に情報共有がしっかりとなされ、組織としてきめ細かな対応をしている様子が伺える。
- ・学校評価の保護者の意見の中に、言葉使いがきつい教職員がいるということに対しては、真摯に受け止め、誤解を招かない言動に心掛けるべきと考える。
- ・家庭学習の定着化を図る意味でも、「1P」(家庭学習)は生徒同士で点検させることによって、取組の参考にさせる等工夫が必要と思われる。同時に、家庭の役割も改めて考える必要があると思われる。
- ・登下校時の自転車の乗り方の指導は、一層計画的に継続して取り組む必要があると思われる。
- ・SNSに影響を受けている子どもが増えていることから、生徒のスマートフォン等の保有状況を明確にしておいた方が良いと思われる。

学校関係者評価を受けた学校の対応

学校の教育目標「向学・自立・協働」の実現に向け、目指す学校像を「安全かつ安心して学び、生活できる学校」「学ぶ喜びを実感できる学校」「活気にあふれ、あいさつがとびかう明るい学校」、そして、学校経営方針を「夢をもち、社会を生き抜く力を身につける生徒の育成」とした。また、指導の重点として「基本的生活習慣の定着」「楽しくわかる授業の推進」「豊かな心の育成」「安全教育の推進」「開かれた信頼される学校づくりの推進」を掲げ、日々教職員は組織として取り組んできた。今年度も、学校関係者評価委員の方々から、生徒が大変落ち着いており、生徒の多くは学校生活を満足している様子が伺えるという評価をいただくと共に、コロナ禍の中でも、教職員の情報共有がしっかりとなされ、組織としてきめ細かな対応をしている様子が伺えるという評価も得たことにより、生徒・教職員の励みになったと考えている。一方、これまでと同様に、基礎学力の向上や家庭学習の定着化、通学時の自転車の安全な乗り方については、引き続き課題が残ってしまった。基礎学力の向上については、改めて基礎学力とは何か、確認を継続していくと共に、「さいたま市GIGAスクール構想」を踏まえた、更なる指導方法の工夫・改善や、指導力の向上を図る校内研修の実施、教員相互の授業参観等を一層推進することによって、今後も授業改善に取り組み、生徒・保護者からの評価が高まるようにしていく。家庭学習の定着化についても、「さいたま市GIGAスクール構想」を踏まえた家庭学習に適した具体的な内容を示したり、家庭の協力が得られるよう積極的に働きかけると共に、小・中学校との連携を一層図りながら、9年間を見据えた学習習慣の定着を目指していきたい。また、自転車通学時における大きな事故等は発生していないが、自転車の乗り方のマナーに対して、地域から苦情が数件寄せられることがあったことから、登下校の安全指導については、家庭内で積極的に家族で話す場を設けてもらうことや、PTAとの連携による登校指導を継続していくと共に、交通安全教室や自転車運転免許制度講習会の実施、自転車安全利用5則やルール・マナーの遵守を日常的に指導していく。次年度も、本年度以上に具体的な改善策をもって学校の教育目標の具現化に取り組むと共に、教職員一同、誤解を招かない言動に徹しながら、地域に根差し開かれた、信頼され愛される学校づくりに努めていく。

さいたま市立川通中学校長

安藤 幸子

